

## RESAS を活用した産官学連携による久米南町の新事業提案

○佐々木 公之（中国学園大学）

梶西 将司（中国学園大学）

大田 住吉（筑波学院大学）

## 1. はじめに

本発表は、産業構造や人口動態、人の流れなどに関する官民のビッグデータを集約し可視化するシステムとして、政府により提供されている地域経済分析システム（RESAS）を活用するとともに、産官学が連携して、岡山県久米南町の地域活性化を目的とした新事業提案に関する事例発表である。本発表では、RESAS を用いた久米南町の分析結果と代表研究者のゼミナールの PBL（課題解決型学習）を通じて、新事業（久米南町「食」のサブスクリプションサービス）の実証実験の取り組みについて発表を行う。

## 2. 調査概要

岡山県久米南町は、政令指定都市の岡山市と中核市の津山市の間に位置し、農業を主要産業とする中山間地域である。近年の少子高齢化により人口減少が進み、高齢化率は岡山県内で最も高い 44.9% となっている。人口も 1 年間で約 90 人減少し、産業・福祉・自治会など各分野での担い手不足が深刻な課題となっている。さらに、主要産業である農業では、担い手不足から各地で耕作放棄地が増加するなど問題があるため、大胆な政策と対策が必要である。

中国学園大学と久米南町との取り組みは、代表研究者のゼミ生に久米南町出身者がいた縁で始まった。地域経済分析システム（RESAS）を用いて久米南町を分析した結果、農業が占める割合が高く、地域を活性化するためには影響力係数と感応度係数の高い農業と食料品を強化する必要があると導き出した。しかしながら、近年は、高齢化、農業の担い手不足なども影響し、農業算出額が大きく減少していた。そこで、久米南町の第 1 次産業の付加価値を高めるために、農産物を消費者に対して直接販売する仕組み、規格外野菜として廃棄される農作物の有効活用が必要だと考えた。さらに、新たな農業の担い手を確保するためにも、久米南町の魅力を知ってもらい、関係人口を獲得する取り組みが必要だと考えた。

生産者への安定的な収入確保、農産物の付加価値向上、農業の担い手不足解消、また、関係人口を獲得するためのアイデアを産官学で何度も協議した。その結果、定額料金を支払うことで毎月 3 つのサービス（宅配、体験、食事）が受けられる、久米南町「食」のサブスクリプションサービス（以下、本サブスク）の新事業アイデアが浮かんだ【図 1】。

本サブスクの 3 つのサービス目的は、以下の通りである。

- 宅配：農業の売上高、付加価値額を上げるために、消費者に直接農産物を届ける。
- 体験：農業の担い手不足解消と価値を共有することで関係人口を獲得する。
- 食事：廃棄される規格外野菜を有効活用し、久米南町ならではの特産品を開発し付加価値を高める。

このアイデアを実現化するため、2020 年より PBL（課題解決型学習）として代表研究者のゼミナールにて実証実験を開始した。

2020 年は、学生が久米南町の食品（柚子、餅など）PR 動画を企画制作し、動画共有サイト YouTube にて情報発信を行った【図 2】。2021 年は、農家と連携して田植え、稲刈り、さつまいもの農業体験をし、検証を行った【図 3】。2022 年は、学生主導で「オーガニックぜんざい」の新商品開発を行った【図 4】。2023 年は、岡山県の有名ホテルと連携して、規格外野菜を利用したパスタソース、スープ、ドレッシングなどの開発を行った【図 5】。

実証実験を通して、本サブスクの実現には様々な課題はあったことが分かったが、地元住民からの評判は良好であった。今後は、産官学が連携し、事業化に向けて取り組む方針である。

本ビジネスアイデアは、地方創生☆政策アイデアコンテスト 2023 において最終審査会のファイナリストに選出され、中国経済産業局長賞を受賞した。



図1 久米南町食のサブスクリプションサービスの概要



図2 実証検証 宅配



図3 実証検証 農業体験



図4 実証検証 特産品の開発(学生)



図5 実証検証 特産品の開発(ホテル)